

製品名: ABL2 (7J9) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe06452**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,FC 1:10-1:100
分子量	128kDa

抗原情報

遺伝子名	ABL2
別名	ABL2; ABL1; Tyrosine kinase ARG; kinase Arg;
遺伝子 ID	27.0
SwissProt ID	P42684
免疫原	ヒト ABL2 の合成ペプチド

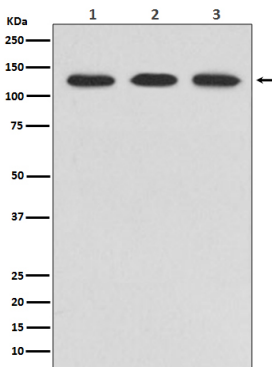
背景

ABL2 は細胞質チロシンキナーゼで、ABL1 と密接に関連していますが、異なります。タンパク質の類似点には、チロシンキナーゼドメインが含まれ、アミノ末端にまで広がって SH2 および SH3 ドメインが含まれます。ABL2 は正常細胞と腫瘍細胞の両方で発現します。ABL2 遺伝子産物は、約 12 kb の長さの異なるアミノ末端を持つ 2 つのバリエーションとして発現されます。細胞外刺激に応答した細胞骨格リモデリング、細胞運動と接着、受容体エンドサイトーシスなど、細胞の成長と生存に関連する重要なプロセスで ABL1 と重複する役割を果たす非受容体チロシンタンパク質キナーゼです。MYH10 (運動に関与)、CTTN (シグナル伝達に関与)、または TUBA1 と TUBB (微小管サブユニット) などの細胞骨格ダイナミクスを制御するタンパク質のチロシンリン酸化を介してアクチンリモデリングを調整します。F-アクチンに直接結合し、F-アクチンを束ねる活性を介してアクチン細胞骨格構造を調節します。CRK、CRKL、DOK1、ARHGAP35 など、これらのプロセスの主要な調節因子のリン酸化を介して細胞接着と運動性の調節に関与しています。ARHGAP35 の接着依存性リン酸化は RASA1 との会合を促進し、ARHGAP35 を細胞周縁部にリクルートして RHO を阻害します。PDGFRB などの複数の受容体チロシンキナーゼや、RIN1 などのエンドサイトーシス調節に関与する他の基質をリン酸化します。脳では、シナプスでタンパク質をリン酸化することにより神経伝達を調節する可能性があります。ABL2 は、感染時に複数の病理学的シグナル伝達カスケードの調節因子としても機能します。病原体は ABL2 キナーゼシグナル伝達を乗っ取り、細胞内移動や宿主細胞の退出を促進するなど、さまざまな目的で宿主のアクチン細胞骨格を再編成できます。最後に、自己触媒活性と阻害剤 ABI1 のリン酸化を通じて、それ自身の調節因子として機能します。

研究分野

ErbB_HER;ウイルス性心筋炎;

画像データ



(1) HeLa 細胞溶解物、(2) NIH/3T3 細胞溶解物、(3) PC-12 細胞溶解物における ABL2 発現のウエスタンブロット解析。